

工具箱の新価値創造 デザイン性と確かな耐久性

事業内容

金属製工具箱のトップブランド

同社は昭和40年、大阪府東大阪市でプレス加工の技術^{ひさし けいゆう}をベースとするものづくり企業として久司^{ひさし}泰二^{たいじ}氏が創業した。その後、オリジナルの金属製工具箱を開発。自社ブランドおよびOEM（相手先ブランド生産）製品を機械工具商社や作業工具メーカーを通じて全国に販売しており、現在では金属製工具箱の国内トップブランドとして揺るぎない地位を確立している。

ピンク色の工具箱が転機に

発売当初の工具箱は金属の“曲げ加工”で製造していた。類似製品との価格競争や、廉価のプラスチック製の工具箱に対抗するため、“深絞り”といわれるプレス加工の技術によって生産性と耐久性をさらに向上させた。また、ピンク色の塗装を施した工具箱の開発が同社の転機となった。現在では同社の売上の20%が、一般消費者向けの製品だ。

工具箱をはじめとする金属製の“箱”事業を軸に、キャスター事業、ワゴンなどの収納事業の3本柱で国内外を問わず幅広く事業を展開している。

補助事業

ミニチュア工具箱の事業化

同社では工具箱の顧客・用途の拡大のため、一般消費者をターゲットに雑貨向け工具箱の企画・開発に注力している。中小企業庁の「ものづくり補助金」を活用し、同社のテストマーケティングにおいて高い評価を得ている雑貨向けミニチュア工具箱「COBAKO（コバコ）」の金型および量産技術の開発による早期事業化に取り組んだ。

使い方はあなた次第

「COBAKO」は同社の代表的な製品である青い山型工具箱のミニチュア版となっている。同社がもっとも得意とする深絞り加工ではなく、折り曲げ加工とすることで、深絞り加工の山型工具箱の角が丸いのに対して、エッジを効かせたシャープなデザインとしている。「『大切なもの』や『お気に入り』を入れるための自分だけの小さな箱」を基本コンセプトに、中に入れるものは持ち主によって文房具・時計・アクセサリ・化粧品・薬など、箱は小さいが使い方は無限大だ。

東洋スチール 株式会社

代表取締役社長 久司^{ひさし}泰二^{たいじ}
〒578-0901 大阪府東大阪市加納4-8-13
TEL. 072-964-3181 FAX. 072-964-3183
資本金/30,000千円 従業員/23名
主な取引先/トラスコ中山(株)、TONE(株)、
(株)泉精器
主な保有設備/TPプレス110、ペンディングプレス、
リンクプレス200、プレスロボット、
TPプレス150、60Tプレス、ロボット
フィードなど
主力製品/工具箱、キャスター、工業用収納用品など

オンライン
受発注

量産
OK

海外
対応

時代のニーズに沿って、 常に先を見据えた経営を目指します

代表取締役社長 久司^{ひさし}泰二^{たいじ}

「がんじょうで耐久性に優れた金属製」、
「継ぎ目のない絞り加工」といった基本
価値をもとに、デザイン機能を有した豊富
なサイズとバリエーションのある工具箱、
キャスターなどの商品を製造、販売して
います。



「山型工具箱」で平成21年度グッドデザイン・ロングライフデザイン賞受賞



工具箱「COBAKO」



道具箱「KONSTELLA」

具体的成果

早期事業化に成功

本事業における取り組みの成果として、製造工程および製造方法をプレス加工機と金型を用いた曲げ加工に変更したことで、プレス加工工程の大幅な短縮と製造コストの大幅な低減に成功した。また、それにより「COBAKO」の早期事業化が実現した。

販路の面でも、国内最大ECサイトのアマゾンを通じて一般消費者に直接販売している他、無印良品、MOMA デザインストアといった小売店や大手通信販売会社のフェリシモなどの販路を構築している。

信頼と実績の青色

代表製品である山型工具箱は、長年にわたりユーザーからの高い支持を得て、今後もその価値を発揮し続けるであろう製品に贈られる、グッドデザイン・ロングライフデザイン賞を受賞している。

「COBAKO」はピンク・アイボリー・ブラック・ブルーの4色展開で、発売当初はブルーの色合いが、山型工具箱とは異なる明るいブルーの塗装が施されていた。顧客の「いつもの青色のものが欲しい」といった声に応える形で、現在は山型工具箱に、色も形もそっくりのミニチュア版となった経緯がある。同社が手がける製品は、見た目は可愛い雑貨向けであっても品質は本物。工具箱の青色は信頼と実績の証だ。

今後の戦略

新たな販路を開拓し、海外市場へ

雑貨向け工具箱の今後の展開は、東京インターナショナル・ギフト・ショーや、海外の展示会などに積極的に出展することで、新たな販路・顧客の獲得を目指している。

また、海外展開については、アメリカ、イギリス、フランス、イタリア、香港など各国の無印良品や、MOMA デザインストアを通じて全世界で販売されており、開発した製品の海外展開への準備も万端だ。

既存事業と新事業の安定成長を目指す

東大阪商工会議所が開催するセミナーを通じて、近畿大学と産学連携での新製品開発を開始した。「若い子には、我々にはない発想やひらめきがある。とても面白い」と、これまでにない視点のアイデアに久司^{ひさし}泰二^{たいじ}社長は目を輝かせる。その他にも、デザイナーとのマッチングによって開発した道具箱「KONSTELLA（コンステラ）」や、クラウドファウンディングを通じてユーザーの生の声を取り入れた新製品の企画など、さまざまな新しい取り組みを行う。

同社としては今後もB to Cの売り上げ比率を高めるのではなく、全体的に売り上げを伸ばすことを目標にしている。同社の強みは同じ製品を異なる販路を通じて販売できることにある。強みを生かして、さらなる成長を目指す。

取材を終えて

創意工夫で さらなる飛躍へ

「COBAKO」の開発者は女性で、製品やパッケージのデザイン、使い方のアイデアなど、女性目線の細やかな感性が光る。久司社長は開発担当者の意見を尊重してものづくりを行うことで、他にはない面白い製品を生み出している。製品によっては製造工程の一部を海外で行うが、雑貨向け製品はすべて国内製造にすることで日本製ブランドを生かす。老舗の信頼と新しいアイデアで消費者の心を掴み、今後のさらなる飛躍が期待できそうだ。

<http://www.toyosteel.jp/>